

暗いからきこえないんだよとAが言う

ね、とKが言う

ね、とK の息子のA がいう

最初のAとあとのAは別のA

最初のAは弦を揺らす たくさん道具を持っていて

だしたりいれたりいれたりだしたり

こっちからあっちあっちからこっち

こっちからあっちへいくとあちはこっちになって

Hは、

水に流されてしまったふるさとの話しをした

そのまちの

もっと北にある大きな川の河口で彼は、

また奇跡をみた、と言う

雪のなか

T団地行きのバスがくる

Hが奇跡を見たと言う場所に

黄色をかきわけてすすむ

かき分けているのは、あしか、よしか

やわらかい地面

赤いビンのめじるしが

たくさんありすぎてどこに向かえばよいやら

すこしあがって

すこしさがる

強い風に

よこずれする

切れ目からは海

ブルーの上着はこの川にある

Kは、夢で見た私のブルーの上着の話をする

私は川に沈み、上着だけが彼女の手に残った

最初のKとあとのKは別のK

大きな川のこっちは雪であっち晴れて

私はこの水に沈み

黒い砂の川岸に

ブルーの上着は残される

赤いピンは蝶をとめる
そこには影があるけどここにはなくて

Pの妻はいつも毛糸を編んでいる
手元を見ずに編みながら
もっとずっと北にある島の話をする
蝶のような形の島

Mはとうとう
その島には行けなかった

2度目の冬も
T団地いきのバスは寒くて

AでもKでもHでもPでもMでもない初老の男性が
川岸のベンチにすわって
こんにちは、という
彼の話は聞かなかった
あっちからとこっちからの汽水が凍る

もっとやわらかい地面に
ゆっくりと沈む途中で
黒いリングを落としてきた

最初のAは弦をゆらす
聞き手のいない音は、焦点を結ばない
ばらばらの複眼

大きな川を渡る橋の横の
このみちは通らなかったほうの道

Mのおじさんは部屋いっぱい青い上着を持っていて
青い上着しか着なかった
あっちをきたりこっちをきたりして見せてくれる

最初のMとあとのMは別のM
これはあとのMが話してくれたこと

あとのMは大きな魚を抱く